

【防災メモ】

～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています。

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、大きな力がかかり岩盤にひずみが蓄えられます（図1）。そのひずみが限界に達したとき岩盤が急速にずれ動きます。これが地震です。

地震は、海溝沿いでプレート境界や海のプレート内部で発生する「海溝型地震」のほか、陸域の浅い所でも発生します。この地震を「陸域の浅い地震」と呼びます（図2）。

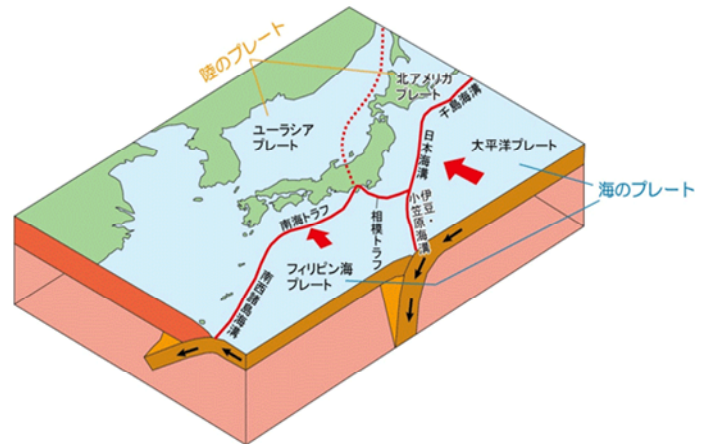


図1 日本列島周辺のプレート

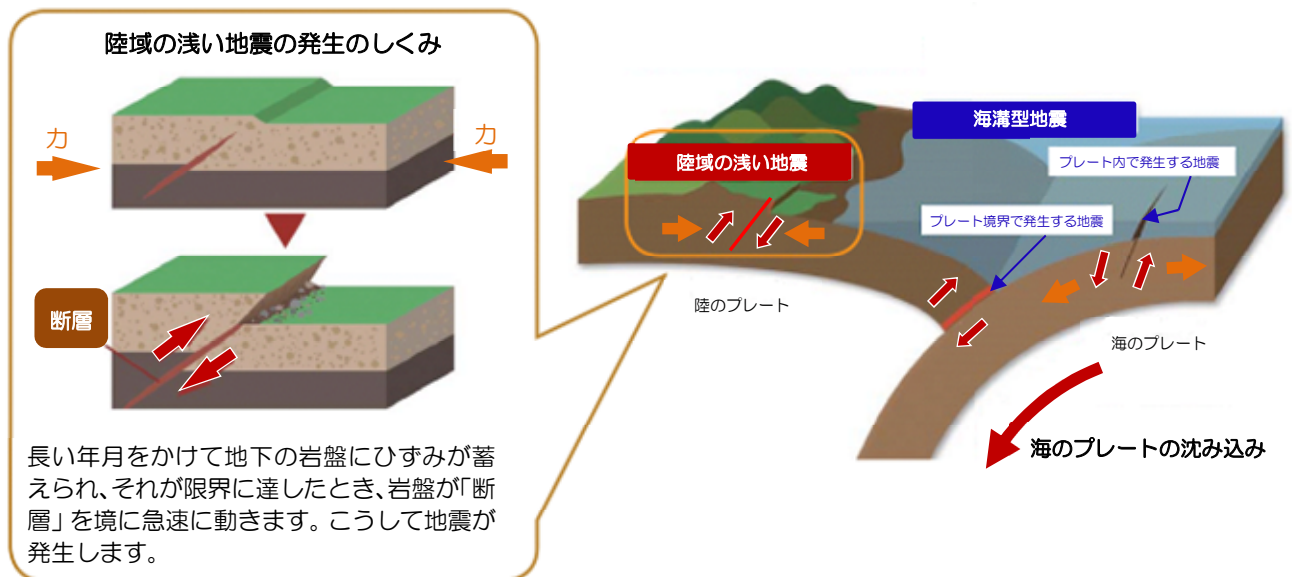


図2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ

「陸域の浅い地震」は人の住む地域に近い場所で発生する可能性があるため、地震の規模（マグニチュード）が比較的小さくても局所的に強い揺れを伴う場合があります。

2018年（平成30年）9月6日に発生した「平成30年北海道胆振東部地震」も、マグニチュードは6.7でしたが最大震度7を観測するなど、このタイプの地震でした。この強い揺れで発生した大規模な土砂崩れにより多数の人命が失われ、また、道内全域で大規模停電が発生するなど、大きな被害や影響をもたらしました。

このような地震はいつどこで発生してもおかしくありませんので、突然の揺れに備えて日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認をしておきましょう。